

平成20年4月15日  
京阪電気鉄道株式会社

## 京阪グループ新世紀に向けたブランドコンセプトに基づき 京阪線車両のカラーデザインを一新します

京阪グループでは、グループ経営ビジョン「“選ばれる京阪”への挑戦」実現に向け、新たな「京阪ブランド」を確立するため、イメージ改革を進めています。

今般、その一環として、京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市 社長：上田成之助）では、中之島線直通の優等列車用に新型車両を投入するにあわせて、既存車両も含め、京阪線（京阪本線・中之島線・鴨東線・交野線・宇治線）全車両のカラーデザインを一新することにいたしました。京阪電車の塗色は、特急用車両が昭和26年（1951年）に上半分が黄色（マンダリン・オレンジ）で下半分が赤色（カーマイン・レッド）、一般車両が昭和32年（1957年）に上半分が若草色（ライト・グリーン）で下半分が青緑色（ダーク・グリーン）に定まってから約半世紀にわたり、大きく変更することなく現在に至っています。



Rendering © GK-DSH 2008

今回のカラー変更では、京阪線車両を、

**2 ドア・クロスシートの特急用車両**

**3 ドア・セミクロスシートの中之島直通優等車両**

**3 ドア・ロングシートの一般車両**

に区分し、には、水都大阪をイメージした紺色をメインカラーに採用したほか、は京阪特急の伝統色である黄色と赤色を残しながら反転、は同じく京阪電車の伝統色である緑色を残しながら下半分に白色を新たに取り入れるなど、沿線のお客さまに定着した種別の識別感覚と大きなずれを生じさせないように配慮したうえで、現代的なイメージに仕上げました。

新型車両は中之島線開業にあわせて営業運転を開始します。また、既存車両は、本年4月から順次塗装工事に取り掛かり、1編成目が5月から京阪線で営業運転を開始するのを皮切りに、平成24年までに全車両の塗装変更を完了する予定です。各車種とも共通しまして、車両をよりスマートに見せるため、上部に濃い色を配して窓まわりをすっきりさせています。また、京阪の伝統であるツートンカラーをベースにしていますが、間に細い帯を入れることで下から上へのグラデーションによる上昇感を生み出しています。

京阪線車両の新カラーデザインの概要は下記のとおりです。

記

**1. 2 ドア・クロスシートの特急用車両**

該当車両：8000系（現・3000系含む）

車両数：88両

配色：上部：赤色（エレガント・レッド）

帯線：金色（エレガント・ゴールド）

下部：黄色（エレガント・イエロー）

コンセプト：京阪線でもっともグレードが高い車両であり、雅やかなハレの気分で、京都へゆったり旅をするクロスシート車両です。赤色、黄色、金色の組み合わせで、十二単や紅葉、祝祭、金時絵などエレガントなイメージを連想させるカラーデザインです。



## 2. 3ドア・セミクロスシートの中之島直通優等車両

該当車両：3000系（新型車両）

車両数：48両

配色：上部：紺色（エレガント・ブルー）

帯線：銀色（スマート・シルバー）

下部：白色（アーバン・ホワイト）

コンセプト：特急用に次いでグレードが高く、快適な空間を提供する車両で、粋な車両で快速移動するセミクロスシート車両です。特急用車両の雅やかな雰囲気に対し、水都の中心、中之島の粋なスマートさを意識させるカラーです。紺色は堂島川、土佐堀川を含む淀川水系の流れをイメージさせると同時に、京のれんや紺袴など、伝統と格式を感じさせる色でもあります。また、銀色の帯や白色は、都市のきらめきを表すと同時に、石庭における川の流れを表しています。紺色と銀色、白色の組み合わせで、風流かつ現代的な感覚を表現するカラーデザインです。



## 3. 3ドア・ロングシートの一般車両

該当車両：3000系、8000系を除く京阪線のすべての車両  
（9000系を含む）

車両数：574両

配色：上部：濃緑色（レスト・グリーン）

帯線：黄緑色（フレッシュ・グリーン）

下部：白色（アーバン・ホワイト）

コンセプト：京阪線の一般的な車両で、沿線の各駅を結ぶロングシート車両です。緑色は、樟葉～淀間に代表される緑あふれる沿線風景に重なるとともに、成長・発展・若々しさといった京阪の企業カラーを象徴しています。京阪の伝統色であるグリーンに白色を織り交ぜることで、現代的感覚をプラスするカラーデザインです。



以上